（別紙1）　　平成　29　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0770800431		
法人名	医療法人　日新会		
事業所名	「至福の郷」グループホーム東町　だんらんの家		
所在地	福島県喜多方市字石田4041-1		
自己評価作成日	平成29年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232　福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成29年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

本人様のもっている力を引き出す様に出来る事は時間をかけながら声掛けの工夫をしている。言葉を忘れない様会話を大事にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

保育園児の白虎隊演武や中学生ボランテアの受け入れ、地域夏祭り、保育園運動会の見学と利用者が地域とのつながりを積極的に図り、利用者本位の支援に取り組んでいる。
地域住民の認知症、介護の悩み相談の窓口としてスマイルカフェを毎月開催し、認知症サポーターとして認知症サポート育成講座に出席するなど積極的に認知症の理解を深める活動に取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で活き活きと暮らしていける様理念を作り苑内にて無理のない生活リハビリを行って頂く様努めている。	2年前、理念を職員が解りやすいものに見直している。、員も見直しに参加して理念の共有化を図っている。利用者本位のケアのためにとユニットごとに月間目標を職員の話し合いにより決めるなど実践的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の太鼓台見学、秋の収穫祭への招待を受けたり　のびやか保育所の行事への参加、地域の中学生のボランティア体験学習の受け入れ等を通し利用者様の楽しみと笑顔が生活の張りとなっている。	認知症カフェを毎月開催している。地域住民に声かけをし、事業所見学を勧め介護や認知症の相談を受けるなど、地域活動を積極的に進めている。地域行事に参加したり事業所行事に招待したり、地域住民と利用者との交流を推進している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月実施している認知症「スマイルカフェ」に取り組み利用者様の生活の様子を見て頂きお互い情報交換などをしながら認知症の方への考え方、生活を知って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域のボランティアの方に運営推進委員のメンバーに出席して頂き施設を知って頂く様努めている。委員の方より他の施設の取り組み情報を頂く時もあり参考にさせて頂いている。	家族代表、地域住民、市職員などが出席して現状、今後の事業などを説明して、理解を深めている。避難訓練、蕎麦会、認知症カフェなどの開催案内から地域の事業を聞き取るなど、相互に情報交換を行い、利用者の生活支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会、グループホーム連絡協議会に出席して頂き協力関係を築く様努めており、又「認知症カフェ」お茶会を通し認知症を理解して頂く様共有しながら連携に努めている。	推進会議の情報交換に加えて、わからない点は担当課に出向いたり、問い合わせをするなど連携に努めている。事業所行事に招待し、参加してもらうことで認知症やケアの現場を理解してもらえるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内勉強会で身体拘束のないケアについて読み合わせをしながら、精神的弊害には十分気をつけてケアに努めている。	身体拘束についても担当職員が国の資料を持ち寄り、検討することで拘束防止に努めている。最近は言葉による抑止に注意を払い、職員がお互いに注意しながら利用者本位のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内勉強会で特に心理的虐待に意識を持ち言葉の使い方に気をつけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	11月に制度に付いて研修があり学びたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約時に十分説明し理解した上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所持、話しやすい雰囲気作りに心がけている。日々の関わりの中で利用者様の気持ちを声に出来る様確かめている。月1回介護相談員、傾聴ボランティアが入り、思いを聞いて頂いている。	利用者と話しやすい環境づくりで思いの把握に取り組んでいる。月一回の家族の来所時に利用者の近況の説明に加えて、意見の聞き取りに努めている。家族の希望から自宅当時からのヤクルトを飲む習慣を続けられるよう支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で職員の意見、要望を出し合える機会を作り又、日々の申し送りで職員の気付き等話し合い、運営やケアサービスに反映出来る様努めている。	職員会議で職員から様々な改善点など提案がなされている。利用者がドアの角で怪我のないように保護テープの貼り付けから居室のクローゼットドアが観音開きの為、開閉時にドアが利用者に接触、転倒しないようドアの撤去など職員の意見が活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表で職員の意識を高めてもらい、コミュケーションを大事にしている。介護職員処遇交付金を処遇改善手当てとして支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内勉強会を定期的に行いケアの質の向上に努めている。外部研修に参加出来る様努力したいと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回管理者会議で情報交換を行っている。認知症カフェを開催する事で同法人との交流の機会が出来る。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様や家族様より入居前の状況、状態を伺いケアサービス内容に反映出来る様にしている。本人の表情、動作に目配り、傾聴しながら自尊心を傷つけない様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査、契約時に介護の経過、現在困っている事、不安に思っている事を聞き家族の思いが反映出来る様努めている。又信頼関係が築かれる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様と本人様の話を聞き納得したサービスが出来る様努めている。今後の事についてサービス利用について説明させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様が各々出来る事がありお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活面、健康面の報告、行事への参加、来所時には本人様を交えてはなしをする様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が混乱しない程度を考慮しながら支援している。	家族とのドライブや外出、外泊などが行われている。会員だった絵画展覧会にも出かけている。知人の面会時には、居室でゆっくり話せるようお茶を提供している。毎月の散髪屋さんとは会話を楽しみにして、新たな馴染み関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ空間の中で職員を交えて過ごす時間が多く自室に他の方が行き利用者様同士お話が出来る様にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所時など顔を出したり、家族と会った時など相談させて頂いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	対応できる事出来ない事を検討し家族と相談すべき事は協力して頂き本人様の希望に添う様に努めている。	入居時の利用者の生活歴、思いの聞き取りをベースに、日々の関わりの中から利用者の意向の聞き取りに努めている。話せない利用者の場合は、しぐさや表情からの汲み取り、家族への問い合わせなどで思いの把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前と同じ様には出来ないが本人様の心の変化と共に合わせ生活して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分の生活スタイルが出来ており職員はそれに合わせ声掛けさせて頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月定例会に検討している。また毎日の報告時に変化、考え方など話をしている。家族の方には来所時にお話をさせて頂いている。	毎月の検討会には、日々の利用者の状態変化から介護計画の見直しが必要なのか職員全員で話し合い、必要の場合、見直している。介護計画の見直しの際は家族への事前説明に加え、受診に同行してもらい現状を知って貰うなど理解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、テェック表、申し送りノート等にて情報を共有している。1日2回の申し送り職員会議でのｹｱの改善、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入退院時、遠く離れている家族の方に代わり臨機応変に対応している。受診に付いても出来る限り対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、保育所との交流、地域のボランティアの硬筆、社協で行なわれるふれあい作品展に個人の作品を出展するなどしながら本人様の楽しみを作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前よりのかかりつけ医師の受診継続、家族様の同行が必要な時は事前に連絡し受診内容、身体の変化を聞き共有している。	入居前からのかかりつけ医の受診を基本に、継続の希望を確認して全員を職員が受診支援している。歯科や精神科などの専門医も職員が対応している。症状変化や服薬の変更などの情報は家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護があり状態報告している。緊急性（皮膚の状態）悪化に対してすぐ受診を取り付けて頂いており助かっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報を提供し本人様の性格、習慣等伝えている。足を運び状態を見聞き回復状態を見ながら早期の退院を考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設の対応出来る状態を考えながら担当医師と相談し担当医師の指示を仰いでいる。	契約時に利用者、家族の希望を聞きながら事業所が出来ること、出来ないことを理解してもらっている。日々の見守りケアの中、症状や状態変化を家族に報告している。食事や水が取れなくなった場合は入院することなど家族や病院と連携を図りながらケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救命救急講習を受けている。その時々一番良い方法を考え対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施と自然災害時のマニュアルを職員が共有出来る様に努めたい。	通報、避難誘導訓練を毎月実施している。夜間想定や消防署員立ち会いの訓練はそれぞれ年1回行っている。署員の提案で居室の煙体験を実施、煙りの怖さ、低い視線での移動時の難しさを体験し非難に行かせるようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりは違う為ひとくくりりにならない様に相手をよく知る事よりはじまる努力に努めたい。	言葉の使い方勉強会を定期的に開き、言葉のかけ方を学んでいる。さん付けを基本に、利用者はどういう気持ちでいるかを受け止めながら話している。居室への入室では、不在でも声かけして、利用者に安心感と共にプライバシーの保持に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の気持に添える努力をしたいと思う。中々口に出来ない事が多いと思いますが、日々の生活と様子を見ながら見出したしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の気持が優先にならず本人様の希望、こうしたいのかなという気持をくみ取りながら取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	四季、寒暖、行事、外出時の衣類の身だしなみ、着方に注意し髪をとかし自宅での生活が引き続き出来る感覚を持つ事が出来る支援に努めたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食美味しいといって食べて頂き感謝している。季節の食材を取り入れながら昔懐かしいと思って頂く献立を取り入れる様にしたい。	一日の献立を示して利用者との話題づくりになっている。行事食を取り入れることで季節を感じられるよう工夫している。野菜の切り方、食器拭きなど出来る範囲で手伝いをしてもらっている。菜園で育てた野菜が食卓に並ぶなど、楽しい食事になるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、刻み、粥等本人様の状態の合わせその時々考えながら食べて頂いている。多種の水分の味を考えながら飽きない様に考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝時には歯磨き、入れ歯洗浄、嗽等は必ず行なって頂いている。出来ない方は声掛けしながら介助する支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本トイレでの排泄の考え方であり本人様の力に合わせた声掛け、介助をしている。プライバシーを考え見守る事も大事にしている。	排泄パターンや表情やしぐさなどサインの気づきによってトイレに誘導している。退院後でも利用者は必ず布パンツやパットを使用し、トイレを利用するなど、自立した排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、野菜等を考えているが腸の動きが悪い為排便コントロールがうまく行かない方には下剤の力をかりながら滞留便をなくすようにしている。適度な運動、歩行する事も刺激となる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後の入浴となるが事故が起きない様本人様の身体の状態を見ながら身体の衛生と心が気持ちよくなる様に努めている。	利用者好みの入浴剤や季節を感じられる菖蒲、柚子湯などで楽しく入浴が出来るよう工夫している。嫌がる場合は話題をかえたり、時間を置いて気持の変化を見極めて勧めている。風呂利用日は2ユニット交代なので相互利用で毎日の入浴も可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝により身体を休めて頂き夜間に付いては自分で部屋に行かれる方はお任せしている。介助の必要な方は声掛けさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理させて頂き間違いのない様にチェックし確実に服用して頂き下剤は調節している。薬の変更時は特に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お願い事をしたことに対し感謝の気持と本人の前でやり直しをせずそのまま受け入れることが大事と思い称賛している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で外出している。職員のみでは限られてしまうが苑の周囲を散歩したり保育所の園児との交流を楽しむ事が出来る支援をしている。	気候の良いときには事業所周りの散歩や買い物に一緒に出かけている。隣接した保育園の運動会や餅つきを見学し、園児らとふれあっている。花見や紅葉狩り、そば祭りに出かけ、家族の協力で帰宅したり、利用者は日常の外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援が中々出来ないがお金に執着を持っている方もおられる為難しいところもあり職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠く離れている娘さんより定期的にハガキが届き本人様喜んでいる。利用者様より出す支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然体を考え奇抜な飾りはせず皆さんの作品を飾り喜んで頂いている。	食堂には利用者と職員の手作り作品や各行事、中学生ボランティアとの交流写真を飾り、安心できて落ち着ける雰囲気づくりに努めている。室内は加温、加湿により快適な状態に維持され、過ごしやすい環境づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室であり思い思いの生活が出来る様にしている。お互いの部屋を行き来できる雰囲気であり楽しく話をしておりよい関係作りを利用者様同士が作っている継続出来る様支援していく。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 （グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	現在の部屋が落ち着く場所となっており馴染みの物を置かれる方と置く事により不穏になる方もおられる為に利用者様に合わせて支援している。	使い慣れた品々や家族写真を飾るほか、写経や生け花など趣味を継続できる用具を持ち込むなど利用者はそれぞれ居心地よい居室づくりに取り組んでいる。配置は、利用者の希望に添いながら家族と職員が一緒になって支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険と思うわれるものは取り除き安全な生活が出来る支援をしている。		